

[第 1 回]

地域包括ケア推進部会（介護予防専門部会） __ 議事要旨

概要

日時：平成 29 年 10 月 27 日（金） 13：00 ～15：30

場所：神戸市役所 1 号館 12 階（ 1121 会議室 ）

資料：当日資料（添付のとおり）

(1) フレイルチェックの活用のための評価・検証

委員：薬局にてフレイル健診を受診しフレイルに該当した場合、該当された方の関心事は「では、どうすれば良いのか」ということとなるが、具体的にどのようなところにどう繋いでいっているのか。

→ 事務局：現在、市から結果（当日資料添付）を返送する仕組みとなっている。これについては、市としても「具体的にどこに、どう繋いでいくか」を課題として感じているところであり、本部会にてご意見をお伺いしたいと考えている。

委員：例えば、口腔に該当された方は歯科からアプローチする等も考えられる。

→ 事務局：今後、医療機関等との連携も重要になってくると考えている。

→ 委員：そのためにも、各専門職団体において受け皿を作っておくことが重要になってくる。これにあたって、受入可能人数とそれに対応するための人員等がどの程度、必要となるかが見えてくる。

→ 委員：一方で利用者の方からの視点では、医療機関等つなぐことについて煩雑であるとして、これを拒む方もおられる 状況である。なるべく簡易な手続きが求められると感じている。

→ 委員：そういった（専門職の介入を拒む）方のためにも、通いの場が必要であり、神戸市内にある 1,200 箇所の通いの場の一覧を整備する等の対応が必要である。

委員：先日、フレイルと思われる方が診察に来た。加齢によるものだとはアドバイスしたが納得されず、どうしたらいいか、と何度も聞かれていた。

委員：医療機関からの紹介で、認定申請をする人は多い。地域で実際に高齢者に関わりのある機関において、まだ介護の必要性が感じられない方（自立して生活ができる方）に対して、介護認定を勧奨している機関も見受けられる。まずは、関係機関についても介護予防の浸透を図る必要があると考える。

(2) 介護予防の啓発について

委員 : フレイルもロコモもだが言葉自体を広めていく必要があるのではないか。

委員 : SAT システム[※]や My お食事ノート[※]のような媒体を使うことも有効だと思われる。

委員 : 試食やノベルティを活用すれば、集客力は期待できる。

委員 : 市民自ら企画したものはロコミで広まることが期待される。こういった、ボランティアの方を増やしていくことも必要ではないか。

委員 : 分かり易く、興味が持てるような工夫（リーフレットの文字数を少なくする等）が必要。

→ 委員 : 健康無関心層の方においては、興味を持ってもらい外に引き出す場を提供し、その結果、健康になったのであれば、（事務局説明において、外出や趣味活動をしている方の割に介護予防の取り組みをおこなっていないと回答した方が多いということを受けて）必ずしも、本人が「介護予防」を意識したかどうかに関わる必要はないと思われる。ただし、どれだけの方が健康となったかということは把握しておく必要がある。

委員 : フレイルチェックを入口（きっかけ）とすることも有用ではないか。

SAT システム[※] 食べた食事を食品サンプルから選んでのせるだけで栄養価計算・バランスチェックができるシステム

My お食事ノート[※] 療養者の栄養や食事に関する情報や経過記録などを記載することができます。療養者ご本人やご家族、医療職や介護職との情報共有ツールとしても活用していく予定（現在、昨年度はモデルとして実施。今年度より一部で運用開始。）。

(3) その他のご意見

- ・ 地域のつながりが希薄な地域も存在している。神戸市においては震災により地域のコミュニティが大きく動いたこともあり、地域の横のつながりを強めていくことの必要性も感じている。
- ・ 第7期計画における数値目標の設定について、例えば、神戸市内における通いの場を1,500箇所(国から通いの場所を1箇所/1,000人の割合で設置することを示されている。)まで増やすことについて、300箇所をどのように増やしていくかの検討と同時に、その人員についても、5人/箇所として1,500人のボランティアが必要であることが見えてきて、この方たちをどのように確保するかという点となるという所等も含めて検討していただきたい。